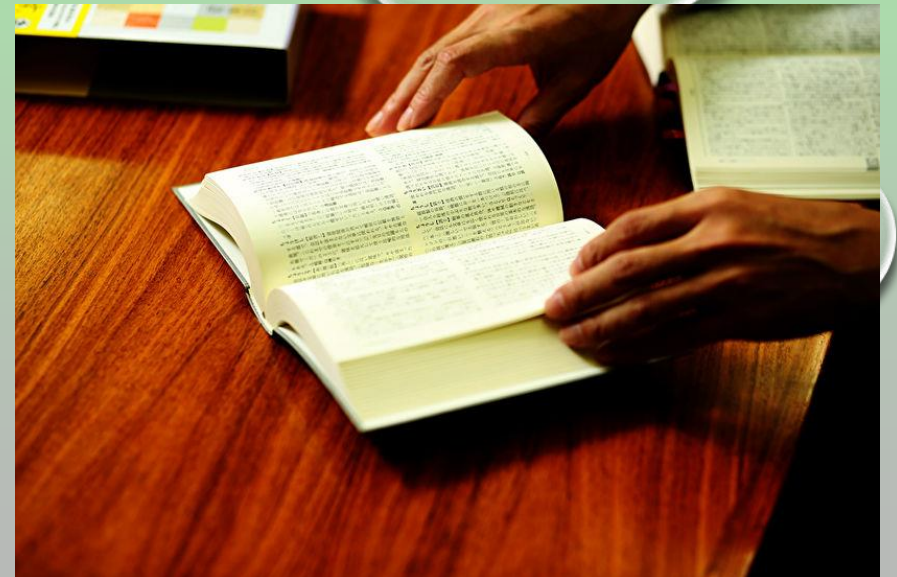


対象 : 小学生 及び 保護者

読もう♪ 書こう♪

思考力・判断力・表現力を
育もう



よ
読もう♪

か
書こう♪

ふだん ほん よ じかん ひと
普段は、本を読むまとまった時間がない人も、
この機会に気になる一冊を手にとって、

どくしょ した
読書に親しんでいるのではないのでしょうか。

せっかくだから、
読書してそこで感じたことや考えたこと、得られたものなどを文章に

してみませんか。そうすることによって、
感じたことや考えたこと、得られたものが、

じぶん
自分の中にしっかりと根付いて残ります。それが、
やがて新たな芽を生むことになり、大き

えだ の せかい ひろ
く枝を伸ばしてあなたの世界は広がってゆくでしょう。

ただし、^{どくしょかんそうぶん}読書感想文^かを書くのは^{にがて}苦手だ、^{ひと}という人もいますでしょう。^{じゅぎょう}授業や^{しゅくだい}宿題^かで書いた^{とき}時も、^{うま}上手く^か書けずにとりあえず^{ていしゅつ}提出した、^{にが}なんて^{おも}苦い^で思い出もあるかもしれませんね。でも、^{どくしょかんそうぶん}そもそも、^{じょうず}読書感想文^かを「^{じょうず}上手に書こう」なんて^{おも}思わなくていいのです。^{じょうず}上手^{へた}下手ではなく、^であなたらしさが^{すてき}にじみ出る^{どくしょかんそうぶん}素敵な読書感想文^よであれば、^{ひと}それを^{おも}読む人に思い^{つた}がしっかりと伝わるのです。



そこで、今日は読書感想文の書き方を確認してみましょう。それをきちんと理解して本
を読み、文章として書いていけば、誰でも自分の中で生まれた**思いを表現**でき、しかも、
それを読む人にしっかりと**伝える読書感想文**を書くことができます。

さあ、それでは、**素敵な読書感想文**を書くための、ポイントをつかんでもらえるように、
解説していきますね！





3つのポイント

① ^{ほん}本を^よ読んで^{まな}学んだこと、^{つた}伝えたいこと……

^{どくしょかんそうぶん}読書感想文には、^{ほん}本を^よ読んで^{かんが}考えたことや^{まな}学んだことなど、^{つた}伝えたいことについて^{きも}気持ちを^ここめて^かかきましょう。^{とく}特に^{なか}まとめの^{なか}中でこのことを^かしっかりと^か書くことで、^{どくしゃ}読者を^{ひき}ひきつける^{すてき}素敵な^{どくしょかんそうぶん}読書感想文になりますよ。

では、このように^{たれ}誰かに^{つた}伝えたくなることを^{じぶん}自分の中に^{なか}抱き^{いた}膨らませるためにも、^{つぎ}次のポイント^{こころ}を心がけましょう。

② ^{こころ} ^{のこ} ^{ぼめん} 心に残った場面……

^{こころ} ^{のこ} ^{ぼめん} 心に残った場面というのは、^{ほん} その本を^{かんどう} 読んでいて感動した^{ぼめん} 場面や^{おも} なるほどと思った^{ぶぶん} 部分
^{たの} や楽しかった^{どくしょかんそうぶん} ところの^{てん} ^{ちゅうしん} ^か ^{おお} ことです。^{おお} 読書感想文には、この^{てん} ^{ちゅうしん} 点を^か 中心にして^{おお} 書くことが^{おお} 多いの
で、^{かしょみ} 2～3箇所^{かしょみ} 見つけられたらいいでしょう。

では、^{わたし} 私たちは^{ぼめん} どのような^{こころ} ^{のこ} 場面が^{こころ} 心に残るのでしょうか。それは、^{つぎ} 次の^{さんこう} ポイントを^{さんこう} 参考
にしてみましょう。

③印象に残った言葉や文……

印象に残る言葉や文というのは、例えば、登場人物が放った衝撃の一言や、作者

(筆者)が思いを込めて述べている一文などです。

例えば、「この言葉(文)を、誰かに話したい。紹介したい」とあなたが思うことがあ

ったならば、それが印象に残った言葉や文だということです。つまりあなたならではの、

この本における名言とでも言えるでしょう。

本ほんをよ読すすみ進めるときに、この3つのポイントを探さがしていきませんが、時じ間かんがたつとつい忘れわすててしまいます。そこで、手て元もとに紙かみとペンおを置おいておいて、メモとを取とる用よう意いをしておきましょ
う。そして、「あ!」「おっ」などと思おもったら、読よみ進すすめている途と中ちゆうでも、何なんペー
ジのどの部分ぶぶんのことか、どのようかんに感かんじたのかをメモしておくことです。そうすることで、後あとで本ほんの
内ない容ようを振ふり返かえるときに十じゆう分ぶん役やく立たちますし、読どく書しょ感かん想そう文ぶんを写かすときに困こまることはありません
ん。そしてなにより、その先さきを読よみ進すすめるときに、その本ほんの中なか身みが、ぐっと自じ分ぶんの中なかに迫せま
くるのを感かんじられるようになるはずです。



3つのポイントを見つけることができたなら、^{すてき} ^{どくしょかんそうぶん} ^か ^{じゅんび} 素敵な読書感想文を書く準備ができたことになり
ます！^か 書いていくときには、3つのポイントを^{いしき} 意識しながら^{すす} 進めましょう。



始めは、ポイント③ から

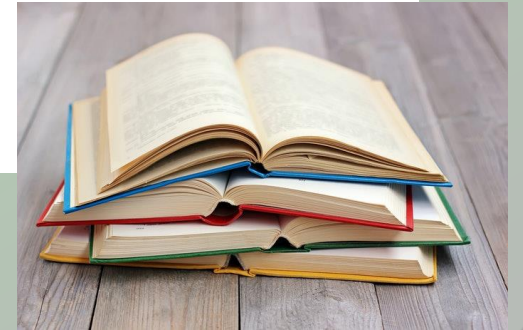
どくしょかんそうぶん はじ いんしょう のおき ことば ぶん か
読書感想文の始めは、印象に残った言葉や文から書いてみましょう。

ぼうとう いんしょう のこ ことば ぶん か ほん ひ っ
冒頭に、あなたの印象に残った言葉や文を書くことで、あなたがその本に引き付けられ

たことをピンピンと響かせることができます。ここでは、その言葉や文がどうして印象に

のこ くわ せつめい ひつよう ほん ばめん
残ったのかを詳しく説明する必要はありません。むしろ、それがその本のどのような場面、

ぶぶん か かんけつ か ていど かま
部分に書かれていたのかを、簡潔に書く程度で構いません。



続いて、ポイント② について

つぎ 次^{つぎ}に、^{こころ}心に残^{のこ}った場面^{ばめん}について説明^{せつめい}します。あなたがその本^{ほん}を^よ読み進^{すす}める中で、感動^{かなどう}した場面^{ばめん}、なるほどと思^{おも}った部分^{ぶぶん}、楽し^{たの}かったところなど2～3箇所^{かしょみ}見つけているでしょう。

それぞれの部分^{ぶぶん}について、ひとつずつ、どのように感^{かん}じたのか、なぜそのように感^{かん}じたのかを、飾^{かさ}らない自分^{じぶん}の言葉^{ことば}で書^かいていきます。その際^{さい}、大切^{たいせつ}なことは、自分自身^{じぶんじしん}の体験^{たいけん}と重^{かさ}ねあ^あ合わせるように書^かくことです。

つまり、本^{ほん}の中^{なか}で書^かかれている出来事^{できごと}が、自分^{じぶん}自身^{じしん}にも当^あてはまることとしてとらえてい
ることがよく伝^{つた}わるからです。その体^{たい}験^{けん}はあなたならではのものですから、それ^かを書^かくこと
で、素^す敵^{てき}な読^{どく}書^{しょ}感^{かん}想^{そう}文^{ぶん}となるのです。したがって、この部^ぶ分^{ぶん}が、読^{どく}書^{しょ}感^{かん}想^{そう}文^{ぶん}全^{ぜん}体^{たい}の半^{はん}分^{ぶん}か
ら三^{さん}分^{ぶん}の二^に程^{てい}度^どになるとおもいます。



終わりに、ポイント① を

そして、自分はこの本を読んで、どんなことが自分に残ったのか、何を学んだのか、これを最後に書きましょう。こうすることで、素敵なそして説得力ある読書感想文になります。あなたの読書感想文を読んだ人は、「この本を読んでもみたい!」と思うこと間違いなしです。





ふ かえ
振り返りましょう。

すてき どくしょかんそうぶん
素敵な読書感想文のためには、3つのポイントを意識しながら本を読み進めましょう。

ほん よ まな かんが なに ころのこ ばめん
本を読んで学んだこと考えたことは何か、そのもとになる心に残った場面はどこか、そこにつながるであろう印象に残った言葉や文はどれか。

じっさい か だんかい の じゅんじょ いしき
そして、実際に書く段階では、この3つのポイントを述べる順序を意識しましょう。

さいしょ いんしょう のこ ことば ぶん いんよう しょうかい つぎ ころのこ ばめん
最初に、印象に残った言葉や文を引用し、紹介する。次に、心に残った場面について自分の体験と関係づけて説明する。最後に、その本を読んで考えたこと学んだことを書く。

じゅんばん か
この順番で書くと、あなたならではの素敵な読書感想文になるでしょう。

〔 読もう♪ ～ おすすめの本 ～ 〕



※対象は、あくまで目安です。どの世代が読んでも価値ある作品です。

＜小学校低学年＞

- | | |
|---------------|----------------|
| 『一さつのおくりもの』 | 森山 京、鴨下 潤 |
| 『エルマーのぼうけん』 | ルース・スタイルス・ガネット |
| 『りんごかもしれない』 | ヨシタケシンスケ |
| 『なぞなぞのすきな女の子』 | 松岡享子、大社玲子 |
| 『しっばいにかんぱい！』 | 宮川ひろ、小泉るみ子 |

〔 読もう♪ ～ おすすめの本 ～ 〕

※対象は、あくまで目安です。どの世代が読んでも価値ある作品です。

〈小学校中学年〉

『おもしろい！進化のふしぎ ざんねんないきもの事典』

今泉忠明、丸山貴文

『窓ぎわのトットちゃん』 黒柳徹子

『チョコレート工場の秘密』 ロアルド・ダール

『ボッコちゃん』 星 新一

『わたしのとくべつな場所』

パトリシア・C・マキサック、ジェリー・ピンクニー

『しゅんかん図鑑』 伊知地国夫



〔 読もう♪ ～ おすすめの本 ～ 〕

※対象は、あくまで目安です。どの世代が読んでも価値ある作品です。

＜小学校高学年＞

『マザー・テレサ あふれる愛』 沖 守弘

『君たちはどういきるか』 吉野源三郎、羽賀翔一

『バッテリー』 あさのあつこ

『注文の多い料理店』 宮沢賢治

『盲導犬不合格物語』 沢田俊子、佐藤やゑ子

『5分後に思わず涙』 桃戸ハル

『モモ』 ミヒヤエル・エンデ

『クニマスは生きていた！』 池田まき子



【 読もう♪ ～ おすすめの本 ～ (参考) 】

※対象は、あくまで目安です。どの世代が読んでも価値ある作品です。

＜中学生＞

- 『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス
- 『西の魔女が死んだ』 梨木果歩
- 『いのちをいただく』 内田美智子
- 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイディみかこ
- 『きみの友だち』 重松 清
- 『夏の庭』 湯本香樹実
- 『飛ぶ教室』 ケストナー
- 『最後の冒険家』 石川直樹
- 『世界を、こんなふうに見てごらん』 日高敏隆
- 『でんせつ』 工藤直子
- 『14歳からの哲学 考えるための教科書』 池田晶子
- 『原稿用紙10枚を書く力』 齋藤 孝
- 『詩のこころを読む』 茨木のり子
- 『世界を救う7人の日本人』 池上 彰
- 『星の王子さま』 サン・テグジュペリ
- 『バッタを倒しにアフリカへ』 前野ウルド浩太郎



〔 保護者の皆様へ 〕

読書に親しむこと、いい本と巡り合うこと、本を通して自分を見つめること、考えや思いを表現することなどは、お子様の成長には大切なことです。そこでこの機会を生かして、これらの体験を重ねてみてはいかがでしょうか。

お子様が、読書感想文を書くために読書する必要はありません。読書を進める際に、年齢や発達段階等に応じて、まず上記のポイントを親子で一緒に確認してはいかがでしょうか。また、読書感想文を書くまでに至らずとも、読んだ本について上記ポイントを参考に、お子様と一緒に語り合ってみてはいかがでしょうか。

そして、お子様が自然と読書感想文を書いていくようになるのを、じっと待つことも大切です。

お子様が、読書体験を通して豊かな人生を築いていく姿を、見守りましょう。